

議 事 要 旨

内容	第 4 回福知山市新文化ホール基本計画再検討委員会
実施日時	2025 年 2 月 7 日（金） 13:30-15:30
場所	福知山市総合福祉会館 33・34 号室
参加者	委員 足立直敬、菊田学美、谷垣修身、谷垣均、中村豪文、淵上紫乃、前田竹司、 牧野新子、夜久豊基 アドバイザー 生田創、阪田弘一、渡辺弘 事務局（福知山市） 森田、井上、岩木、山本、梅原、和久
使用資料	・第 4 回福知山市新文化ホール基本計画再検討委員会資料 ・第 3 回福知山市新文化ホールについて考える市民懇談会（抜粋版）

◆主な検討結果

建設候補地について

市民説明会や市民懇談会、再検討委員会等で出された 14 か所の建設候補地案及び基本計画策定時に示された 6 か所の候補地について、いずれも貴重なご意見であることから現時点では候補地を絞らず、合計 20 か所すべてを候補地案とし、今後実施する「サウンディング型市場調査」にて民間事業者等の意見を伺いながら再検討を進める。

議論の要旨

1. 開会

- ・（事務局）今から、第4回福知山市新文化ホール基本計画再検討委員会を始める。
- ・（委員長）前回1000席程度、幅は800～1200席程度と決定した。本日は、建設場所のエリアを決める。

2. 報告事項

（1）これまでの再検討経過について

—これまでの再検討経過の説明—

（2）第3回福知山市新文化ホールについて考える市民懇談会の報告

—第3回市民懇談会の説明—

- ・（委員長）規模についてアドバイザーから意見をいただきたい。
- ・（アドバイザーM）20年後、改修する際にお金がかかる。長い目で見たときに資金をどのように賄うのかも視野に入れて考える必要がある。
- ・（アドバイザーL）一つの要件が決まってくると、議論が進んでいくと思う。市外の人を呼ぶのか、市内の人を呼ぶのか、ターゲットによって立地が変わってくる。
- ・（アドバイザーK）1000席以下の規模がいいと考えている。1200席は大きい。なぜなら、人間の目や耳で舞台上の生の演目を楽しめる限界の広さが1000席以下であるからだ。岡山を例にすると、学生、合唱団などの人たちは800席のホールを一番使う。立地を考えると席数は上下する可能性がある。ホールの用途やまちづくりも考えながら検討する必要がある。岡山はホールに駐車場がなくても、周辺にある民間の駐車場を利用することで賄えている。ただ、駐輪場についてはそれでも不足しているため、困っている。ニーズをしっかりとらえたうえで、規模や立地、駐車場を考えることが重要である。

3. 協議事項

（1）今後のスケジュール（案）について

—今後のスケジュール案についての説明—

- ・（委員長）再検討委員会や市民懇談会から、民間企業の意見を聞いた方がいいのではないかという声があったため、事務局が検討を行い、このようなサウンディングの提案になっている。1000席程度の規模で事業者にヒアリングを行い、その内容も踏まえて再検討委員会で検討するため、再検討委員会の開催回数が増えることとなった。
- ・（委員E）当初再検討委員会が5回だったが、以降10回以上に増える可能性はあるのか。
- ・（事務局）増える可能性はあるが、10回を目途に提案させていただきたい。
- ・（委員J）規模的なところで、1000席のふり幅はあるということでもいいか。
- ・（委員長）ある程度席数の規模を決めなければ、サウンディングができないので、1000席程度と決めた。今後は1000席程度（800～1200席以内）として議論を進める。

（2）再検討のポイント

—サウンディング型市場調査についての説明—

—財政シミュレーションの進め方についての説明—

- ・（事務局）次回以降の再検討委員会でシミュレーションをお示しする。他市の実績を踏まえてシミュレーションを提示する予定。

- ・ (委員 E) 維持管理のシミュレーションは予想インフレ率も入れるのか。
- ・ (事務局) 物価の上昇率、インフレ、資材高騰等も考慮する予定である。
- ・ (委員 F) 建設後に発生する改修費等も提示する予定か。
- ・ (事務局) そのデータも国のデータ等を参考にしながらシミュレーションを算定する予定。ホールの建設とは、単純に借金のみが残るものではなく、ハードという資産が残り、それが市民生活へ影響を与えていくものであるという認識をしていただきたい。
- ・ (委員 E) アドバイザー M が担当されているホールも建設段階から修繕費は想定していたと思うが、今回その修繕費は想定内だったのか？
- ・ (アドバイザー M) 今回の改修は、東日本大震災をきっかけに変更された建築基準法に対応するためのものである。
- ・ (委員 E) 福知山市から直接事業者に営業活動は行うのか。
- ・ (事務局) 公民連携のプラットフォームや情報発信をするために関係事業者と連携し、アドバイスをいただきながら実施していきたい。イレギュラーな時期に実施するため、そこは不安材料ではあるが、ある程度興味は持ってもらえると考えている。
- ・ (委員 D) サウンディングは一日で終わるのか。
- ・ (事務局) サウンディングは基本的には 1 日で終了したいと考えている。
- ・ (委員長) 再検討委員会の委員は希望がある方は参加いただくスタンスになっている。市民を代表して質問する機会があるという認識をいただきたい。
- ・ (委員 E) クローズドのサウンディングは一日で終わらせる予定か。
- ・ (事務局) 基本的には一日と考えているが、事業者の数によって変動する。

(3) 建設場所の方向性について

ー建設候補地の説明ー

- ・ (委員 A) 再検討委員会で、郊外 A エリア、どういう形をもって判断するか。絞り込んでいく方法はなにかあるか。
- ・ (事務局) 民間事業者に 20 か所の意見を聞くのは時間がかかるため、再検討委員会で絞り込みの作業を行いたい。
- ・ (委員 G) 候補地選びにあたっては、福知山がこれまで取り組んできたブランディングが重要になる。そういうものを意識しながら決める必要がある。
- ・ (委員長) 4 つのエリアに分けて協議をしていく。候補地が多すぎると業者の手が回らない可能性も考えられるので、そうならないよう、こちらであらかじめ絞り込みたい。
- ・ (委員 J) 駅近辺に建てた場合、駐車場の場所は検討できているのか。
- ・ (事務局) 現時点で、駐車場の用地は確保できていない。
- ・ (委員 I) 誰のためのホールなのかを考えたいので、どこを軸に置くのか、ある程度再検討委員会でも検討する必要があると考える。
- ・ (委員 C) 再検討の基本となる新文化ホール基本構想には、多くの人を入れるためのホールではなく、子供たちや地域の人々が文化に触れるためのホールという理念が示されているので、それを踏まえた規模、立地を考えていく必要がある。
- ・ (委員長) サウンディングは一か所に決まるわけではなく、何か所かに絞られることになる。それをもって、委員 I や委員 C のどこを軸にするのかという議論に入っていきと考えている。まずは、場所を見て現実的ではないところに関し

て、この再検討委員会で議論したい。

- ・（事務局）市民懇談会で市民の皆さんから頂戴した意見は、配布した資料に反映している。そこから絞っていければと考えている。
- ・（委員 B）タイムリミットはあるのか？何年先に実現するのが候補地にも関係してくると考える。
- ・（事務局）基本計画策定時に想定していたスケジュールからは、再検討によって既にずれている。そういう意味ではタイムリミットはない、市民と合意形成を図り、丁寧に進めていきたい。
- ・（アドバイザー L）大阪府のホールを対象に、どれくらい遠方から顧客が来ているかと立地の関係を調査したことがある。その結果、主要駅から歩いて 10 分から 15 分程度と近い都市型ホールなら、その町まで 60 分以上もかかる遠方からやってくる顧客が全体の 6 割を占めることが分かった。一方で、主要駅から歩いて 20、30 分もかかる郊外型ホールは、その町まで 30 分圏内の地域から来る顧客が 6 割を占めることが分かった。この結果から、市外、市内の方どちらにもアプローチしたい場合は、主要駅からの近さは重視する必要があると考える。まちづくりの観点では、徒歩圏 15 分程度でありながら、駅前ではない、その周辺の周遊ができるような場所がいいと考える。
- ・（アドバイザー K）郊外にホールだけを建設する、となると運営が成立しない。ホールまで歩いて行ける距離に出演者が泊まれるホテルがあるかどうか、歩ける距離ではない場合はホテルからの送迎用の人員や手段をどう確保するかなども考えて立地を選択すべき。また、これだけ温暖化が進むと夏場などは家にはいられず、公共施設へ涼みに来る市民もいるだろう。そういった面では、ある意味防災の機能を担うことになる。だからこそ、ホールは多くの人々が暮らす中心地区に置き、避暑などを目的に立ち寄った人が、それ以外の楽しみを感じて帰ることが必要だと考える。
- ・（アドバイザー M）最寄りの駅からホールまで歩く間に、街の中でどのような体験ができるのか、そのようなことをイメージしながら考えることもできる。
- ・（委員 J）三段池が支持される理由は、来場者用の駐車場の確保の必要性のためであろう。市民の来やすさを重視するのであれば、駅が適切である。駐車場があるという理由のみで三段池が選ばれているのであれば、三段池は対象外だと考えている。
- ・（委員 A）三段池の駐車場にホールを建てるのであれば、ホール建設のために減ってしまった駐車台数を新たな駐車場整備により確保しなくてはならないことも考慮する必要がある。
- ・（委員 E）市外、市内の人向けにするのであれば、駅近がいいと思う。駅近にしておけば、市役所の建て替え等の話と合わせて複合型施設にすることもできる。
- ・（事務局）市役所は昭和 46 年に建てたが、耐震工事も行っており、令和 18 年までは建て替えの予定はない。必要な改修はされている。
- ・（委員 A）アンケートでは三段池が多かったので、この段階で省くのは難しいと考えている。
- ・（委員 F）いずれサウンディングで絞ることになるので、サウンディングは 4 か所に分けたエリアで、それぞれ意見を聞き、そのあと細分化していくべきだと思う。
- ・（委員 A）具体的にどの場所を指すのかが定かでない候補地や基本的に実現が難しい候補地は対象から外したうえでサウンディングに進みたい。
- ・（委員 D）エリア別にサウンディングをやっていくと思っていた。駅周辺であれば聞きやすいが、郊外に分類されるエリアは駅から遠く、車がある前提の立地であるため、郊外エリアにおいてサウンディングの対象とするのは三段池、長田野公園に絞ってもいいと考えている。
- ・（委員 A）エリアの中から 2 ポイントに絞って、サウンディングにかける方法は考えられるか。
- ・（事務局）まずはエリアを示す必要がある。民間事業者からすると、より具体的な条件が出そろっているかで、出

してくる情報や温度感が変わってくる。もう少し場所を絞った方が、意見が出しやすいと考えている。

- ・（委員長）たとえば、市街地エリアは 3 か所ある。そのすべてに対して意見をいただくよりも、対象をある程度絞っている方が民間事業者も意見を言いやすい事が予想される。委員 D から郊外は三段池、長田野公園に絞ってという意見があったか、その意見に対してどう思うか。
- ・（委員 E）サウンディングする際に、あえて 20 か所の候補地を出し、事業者に対してどのエリアなら可能かという聞き方はできないのか。
- ・（事務局）実際にいくつか例を示して、民間事業者が提案しやすいように情報提供したいと考えている。市民懇談会にて市民からいただいた意見はすべて候補地に含んでいる。明らかに再検討委員会で議論している内容と違う意見を省く方法もある一方で、すべての意見をサウンディングの対象に挙げるという方法もあると考えている。
- ・（委員 J）ホールで何をするのか決めた方が、事業者もイメージが付きやすいと考える。
- ・（事務局）計画に記載している内容や懇談会でニーズは把握できていると思うので、どここの場所だったら可能性があるのかを聞きたい。細かい事業は建物の議論を進めながら計画を立てていく。
- ・（委員 A）たった一人しか出していない意見でもサウンディングにかけべきかどうかをここで議論したい。
- ・（委員 F）市民懇談会の意見が入っているので、そもそも絞り込む意味はないと思う。場所を絞り込むと市民から出た意見が反映されていないことになるため、市民から出た意見を見える化させるために 20 か所は削らず、エリアに絞り込んで、それぞれの業者に意見を聞くことが自然だと考えている。
- ・（委員長）再検討委員会の中で、4 エリアの中で該当箇所を落としていく方がいいか。
- ・（事務局）再検討委員会の中で該当箇所を絞らないという意見なのであれば、それをそのままサウンディングに挙げたいと考えている。
- ・（委員 D）このエリアの中の候補に含まれるこの土地について民間事業者としてどう思うか、という聞き方を想像していたが、いかがか。
- ・（事務局）その予定である。特に郊外エリアには大江や夜久野などが含まれることから、郊外とだけ説明すると想定しづらくなるため、このようにエリアに含まれる具体的な地名を挙げた。
- ・（委員長）市民懇談会の意見をそのまま上げるのではなく、一定議論する必要があると考えている。第一案、すべてをサウンディングに挙げる案、第二案、ある程度絞る案どちらか挙手で、決めたい。
- ・（委員 G）立地を決める際に、その土地の歴史や街づくりについて考える必要があるため、その案は二択過ぎると考える。
- ・（委員 F）皆さんの意見が反映されているような土壌を作って、サウンディングをかけるのではいいのではないか。
- ・（委員長）それでは、市民懇談会で出た意見をすべて尊重して、20 か所すべての候補地を挙げてサウンディングに臨むという流れで問題ないか。
- ・（全委員）問題ない。

以上